

電子マニフェスト導入による 廃棄物処理管理の徹底

サッポロビール株式会社

経営企画部 リーダー 堀籠 直人
千葉工場 エンジニアリング部 浅野 瑞稀

■ 企業プロフィール

サッポロビール株式会社は、1876年に北海道・札幌にて「開拓史麦酒醸造所」として創業したのがルーツです。創業以来モノ造りにこだわり、その中で「サッポロ生ビール黒ラベル」や「エビスビール」などのブランドをお客様とともに育んできました。



右から堀籠様、浅野様

企業概要

設立：1876年9月
所在地：東京都渋谷区恵比寿4-20-1
(恵比寿ガーデンプレイス内)
従業員数：約2,000名(2024年時点)
事業内容：ビール・発泡酒・ワイン・焼酎などの製造
販売、洋酒の販売等

1 電子マニフェストの導入

当社の製造拠点は全国に6か所あり、ビールや缶チューハイ、ワイン等を製造しています。

ビール等の製造過程から排出される廃棄物は多岐にわたっており、原材料の調達時に使用される納品用のパッケージフィルムは「廃プラスチック類」として、またビールの濾過に使用される珪藻土等の「汚泥」が日々排出されています。その他、ビール瓶は通常リユースしていますが、破損してしまったものや、工場設備の老朽化に伴い発生する配管や不用となった缶、海外から材料の一部を輸入する際に使用される木製パレットなど、様々な廃棄物が発生しており、昨年1年間の産業廃棄物(除く副産物)としての当社排出量は約9,000トン、電子マニフェストの使用件数はおよそ2,400件でした。

電子マニフェストの導入前は、各工場でマニフェ

ストの保管・管理をしていましたが、紙マニフェストの管理負担や紛失リスクを軽減するため、2017年に電子マニフェストの運用を開始しました。これにより、本社で全工場のマニフェスト情報を一括管理できるようになり、業務の効率化が図られました。現在では、すべての工場で電子マニフェストを使用しています。

2 処理委託契約書を含む産業廃棄物情報に関する一元管理

産業廃棄物の管理業務として取引先の処理業者との委託契約や許可期限の管理についても見直しを図りました。各工場で行先と委託契約を締結しているため、契約情報や処理業者の許可期限の管理を本社で一元管理するために外部システム(EDI方式*)を活用することとしました。その結果、マニフェストの管理と契約手続きの業務手順が整理され、結果として社内コンプライアンスの管理体制が一層強化されました。

また、登録したマニフェストデータはいつでもダウンロード可能であり、社内全体での廃棄物の排出量等の実績を円滑に集計できるようになり、ESGデータとして公表しています **表**。

* EDI方式: JUNETは外部システム(ASP)と連携可能で、ASPが提供するシステムを利用し電子マニフェストの運用・管理を行う方式。

表 サッポログループ全体の副産物・廃棄物発生量

事業別 副産物・廃棄物発生量 (国内)

	発生量 (t)		再資源化量 (t)		再資源率 (%)	
	2023年	2024年	2023年	2024年	2023年	2024年
酒類事業	52,734	50,077	50,154	47,363	95.1	94.6
食品飲料事業	14,734	12,545	8,753	6,689	59.4	53.3
不動産事業	3,464	3,760	2,385	2,538	68.9	67.5
合計	70,933	66,382	61,292	56,590	86.4	85.2

※国内 18 社を集計対象としています。

※廃棄物発生量について 2023 年までの過去データに誤りがあることが判明し、2025 年 8 月に修正しています。

3 環境への取組み等について

当社の商品製造にともなう副産物・廃棄物の 100%再資源化を目標とし、サステナビリティ方針「大地と、ともに、原点から、笑顔づくりを。」のもと、「循環型社会の実現」に取り組んでいます(図)。その1つとしてサッポログループ容器包装ビジョンを掲げ、化石燃料由来のワンウェイプラスチックの広告品類を 2030 年までに原則廃止(注:日本国内)することとし、2023 年までに 50%削減(注:2019 年比)を達成しています。また、プラスチックを一切使用せず、ビール類の製造過程で発生する副産物のモルトフィードを原料の一部に取り入れアップサイ

クルした紙製タンブラー「もるたん」も開発し、イベント等で使用いただいています **写真**。

当社は、今後も環境保全に関する活動を一層強化しながら、取り組みを進めて参ります。



写真 アップサイクルの紙製タンブラー

(資料提供:経営企画部 アシスタントマネージャー 中林 健)

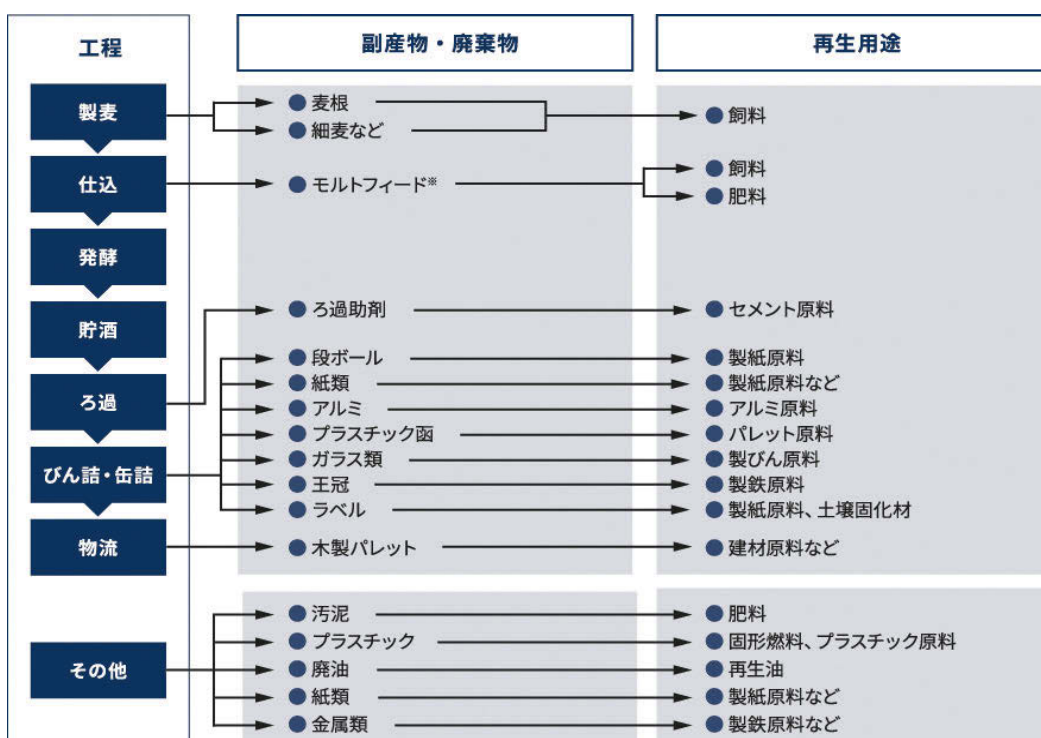


図 ビール製造工程で発生する副産物・廃棄物とその再生用途